

(様式第9 別紙2:公開版)

養成技術者の研究・研修成果等

1. 養成技術者氏名: 殿岡裕樹

2. 養成カリキュラム名: 技術移転支援養成プログラム

3. 養成カリキュラムの達成状況

実施計画書に基づき下記業務を実施し、技術移転に係る専門知識習得及び実務研修を行った。

(1) ベンチャー起業・技術経営関連講義の受講

平成15年度後期に開講された山口大学工学部のベンチャー起業・技術経営(MOT教育)講義「MOT-I『MOT概論』」を受講し、技術移転に関わるテーマとして「マーケティングスキル」や「技術移転論」、「知的財産戦略」や「ビジネスモデルの構築」などに関する知見を得た。

(2) 技術移転関連実務講習会・シンポジウムへの参加・研修

発明協会の主催する「知的財産権取引業育成支援基礎研修」をはじめとして、成果欄に記載の各種セミナーに参加し、特許や技術移転に関連する知識を深めた。

(3) 特許講習会への参加・研修

山口大学知的財産本部主催の各種セミナーに参加し、特許明細書の書き方から特許権の活用まで多くの知見を得た。また、弁理士を講師に迎えた特許勉強会にも参加し、特許の本質の捉え方や特許法について研修した。

(4) 技術移転事業の実務研修・業務把握

後述の各種フェアに出展し、山口TLOの出願特許や活動状況をPRした。山口大学の幾つかの研究室を訪問し技術シーズ発掘を行うとともに、その研究分野における特許の出願状況等を特許庁特許電子図書館(IPDL)の利用により把握し、特許マップを作成して研究者の特許動向把握支援を行った。特許流通アドバイザー、産学連携コーディネーターおよび客員研究員(技術移転専門企業関係者)等による学内研究者の発明の企業への技術移転についての協議に参加し、技術移転の際の着眼点等について学んだ。山口TLOホームページの管理、山口TLO機関紙「山口ティーン・エル・オーNews」の作成等、山口TLOの情報化促進を支援した。弁理士資格取得に向け、弁理士を講師に迎えての試験勉強会に参加するなどして資格取得に向けた取組みを行った。これらの活動を通じて技術移転事業の実務研修を行い、その業務把握を達成できた。

5. 研究推進・特許化研修

山口大学理学部生物学科藤島政博教授の指導の下、専門分野(バイオ分野;細胞内共生現象の解析)における研究を推進し、産業上利用可能性のある新規遺伝子の単離を試みている。また、同教官の研究成果の特許化支援として特許情報調査、発明協会の特許検索アドバイザーとの協議などを行った。これらを通じて知的所有権確保・権利化に向けた一連の流れを把握でき、学内研究者との連携を深めることができた。

4. 成果

(1) ベンチャー起業・技術経営関連講義の受講

山口大学工学部のベンチャー起業・技術経営(MOT教育)講義「MOT - I『MOT概論』」を受講した(10-12月)。近年注目の集まっている「技術経営」や「ベンチャー起業」について、技術評価、経営論、経済論等様々な角度からの知見を得た。講師の顔ぶれは大学の教官、企業経営者、金融関係者と実に多彩であり、それぞれの立場から「起業」というテーマについて論じられ非常に興味深かった。また、理工系ではなかなか触れることのできない経済論についても学ぶことができ、広い視点から技術移転について学ぶという意味で有意義であったと思う。

(2) 技術移転関連実務に関する講習会・シンポジウムへの参加・研修

国際会議から地域のシンポジウムまで幅広い講習会に参加し、知的財産の取り扱いや技術移転について多くの知見を得た。また、各地で開かれる特許流通フェアなどに山口TLOから出願された発明を出展し、実際に会場での説明・山口TLOのPRを行った。出展準備や資料作成などを通じて技術移転実務の現場研修を行い、これらの経験によって技術移転に対する社会意識の高まりを実感することができた。特許流通フェアへの出展は技術移転実務の研修として非常に為になり、発明のポイント絞込みや来場者の関心点・関心度の把握に工夫が必要であることを学んだ。またこれらのフェアにおいては、出展した発明に関する質問に加え「TLOとは何か」「TLOはどのような活動を行っているのか」といった質問が多くなされ、これらの質問に答えることでTLO業務への理解を一層深めることができた。一方では「山口大学はどのような研究分野に強いのか」「山口大学の特徴は何か」といった、大学自体に対する質問も企業関係者の方から多く頂き、TLO業務を進める上で大学との連携を密にすることが極めて重要であるとの認識を得た。更に、普段なかなか交流する機会の持てない技術移転若手実務者が一同に会し、問題意識や経験を共有する機会を持てたことは、今後の活動にとっても大変有意義であった。

(3) 特許講習会への参加・研修

特許や技術移転に関する種々のセミナーや勉強会に参加して、大学における知的財産の取扱いや技術移転活動について知見を得た。また、OJTプログラム生(山口大学工学部院生)と合同で特許や技術移転に関する勉強会を行い、特許情報の検索やその活用について研修を行った。平成16年4月からの山口大学知的財産本部の本格始動を控え、特許等知的財産の取扱いをTLOと連携して行う上で、知的財産本部の活動についてセミナーなどを通じて学ぶことができたのは大変有意義であった。また、平成15年度を通じて様々な方から「特許」についての体系的な知識を得られたことは、技術移転実務だけでなく発明の発掘や教官の支援に対しても有効であり、自身のスキルアップにも繋がったと考えている。今後もこうして得た知見を基にして、技術移転や発明発掘に積極的に取り組んでいきたい。

(4) 技術移転事業の実務研修・業務把握

山口TLOにおいて技術移転事業の業務に携わることによって、技術移転事業の実務研修を行った。フェア等に出展するための資料作成、ケーブルテレビ用特許紹介番組の作成、広報活動などを通じてTLO実務の理解を深めると共に、大学教官と企業関係者との協議に参加するなどして多くの知見を得た。様々な機会を通じて山口TLOの情報化促進活動を行うことによって、自身の山口TLOへの理解も深まり、また、技術移転支援活動を行っているとの実感を得ることができた。加えて特許流通アドバイザーとの協議は、実際の技術移転がどの様にして進むかを理解する助けとなった。今後もこれらの活動を通して技術移転実務に積極的にに関わり、TLO業務の支援を積極的に行っていきたいと考える。

(5) 研究推進・特許化研修

特許や技術移転について学びながら自身の専門研究を進めることで、「研究成果の産業利用」というテーマを常に念頭に置いた研究活動を行うことができた。更にそのテーマについての特許調査等を行うことで、自身のテーマが産業上どのような位置づけにあるのかを理解することができた。また、理学部・農学部等教官の協力の下「研究成果の特許化」というテーマについて多くを学ぶことができた。この際に作成した特許マップや特許調査レポートは、特許について学ぶための貴重な実例となり、今後の活動にとっても意義のあるものである。山口大学の教官の方々には技術移転や特許化といった問題について実に協力的であり、技術移転実務に携わる身として色々と助けられ勉強になる事が多かった。IPDLを利用した特許調査も、教官の現在進行している「生の」研究内容を基にすることで、多くの知見を得られた様に思う。また特許調査報告を通じて教官との密な連絡を取るようになった事は、今後TLOとして活動していく上でも大いに役立つものである。

5. 成果の対外的発表等

(1) 論文発表(論文掲載済、または査読済を対象。)

なし

(2) 口頭発表(発表済を対象。)

なし

(3) 特許等の出願件数

なし

以上